平成 30 年度 第 2 回 SPring-8 ユーザー協同体評議員会 議事録

日時：2018 年 8 月 25 日（土）11 時 30 分～12 時 45 分

場所：姫路市市民会館 3 階第 1 会議室

出席者：水木純一郎(会長)、有馬孝尚(利用委員長)、片山芳則、金谷利治、岸本

浩通、城戸伸明、久米卓志、小原真司、中川敦史(監事)、西原克浩、原田慈久、

藤原明比古(幹事)、東正樹、雨宮慶幸(監事)、岡島敏浩、尾嶋正治、坂田修身(副

会長)、田中義人(幹事)、辻淳一、野中敬正、山口浩司、山本融

幹事・執行部／若林裕助、西堀麻衣子、木村昭夫、本間穂高(副会長)、横谷尚睦、

西堀英治、大和田謙二、吾郷日出夫、高尾正敏(企画委員長)

オブザーバー／山川晃、桜井吉晴、木下豊彦、大端通、反町耕記、伊藤博幸

事務局／坂川琢磨

議題：

1 会長挨拶

会長から挨拶があった。

2 平成 30 年度第 1 回議事録の確認

平成 30 年度第 1 回議事録の確認依頼があり、修正等の意見はなかった。

報告事項

3 行事幹事報告

3.1 行事開催状況

概況の報告があった（資料 1）。この報告に関する質疑はなかった。

3.2 SPring-8 シンポジウム 2018

共同主催であること、開催期間、事前登録数が 320 名以上と多数であること、兵庫県立大学書写キャンパスでサテライト研究会が開催されること、プログラム等の報告があった（資料 2）。この報告に関する質疑はなかった。

3.3 SPRUC 2018 Young Scientist Award

Young Scientist Award の選考過程と受賞者の紹介があった（資料 3）。この報告に関する質疑はなかった。

3.4 SPring-8 秋の学校

資料 4 に沿って、共同主催であること、開催期間、準備状況、夏の学

校との違い、SPRUC の研究会から推薦したグループ講習が実施されること、46 名の申し込み数と社会人が 20 名を占めたこと等が報告された。(資料 4)。この報告に対し以下のような発言・質疑があった。

- 第一回の社会人の参加者人数について質問があり、利用幹事から三割が社会人であったと回答があった。
- 利用幹事から社会人の参加を増やす試みとして、社会人を実行委員に入れ企画に関与させたことが紹介された。
- 企業からテーマを集めるとより良い企画になると考えるかとの質問があり、利用幹事から要望があればそれに沿って行う可能性があるとの回答があった。
- 男女比について質問があり利用幹事から内訳が示された。
- 利用幹事から 29 名が未経験者でありユーザー開拓に貢献しているとの見解が示された。

3.5 第 18 回 SPring-8 夏の学校

開催期間、無事終了したこと、後援事業であること、参加者が 60 名

であったこと等が報告された。この報告に対し以下のような発言・質疑があった。

- JASRI 利用推進部から参加者が昨年より減少したことを受け、大学の単位認定の検討や研究室での案内について依頼があった。

4 会計幹事報告

4.1 SPRUC 会計

平成 30 年度の SPRUC 予算執行状況の報告があった（資料 5）。秋の学校の講師数増加に伴う旅費の増加により、予算に比べ支出が多くなっていること等の説明があった。この報告に関し、庶務幹事から当初予算から増額を見込んでいる秋の学校の経費は、審議事項とする旨の発言があった。

4.2 SPring-8 シンポジウム会計

SPring-8 シンポジウム 2018 の予算執行状況の報告があった（資料 6）。この報告に関する質疑はなかった。

5 利用委員会報告

5.1 研究会開催状況

6 件の研究会と 6 件のサテライトワークショップがあり、例年並みの開催状況である旨の報告があった（資料 7）。この報告に関する質疑はなかった。

5.2 分野融合型研究グループ

実用グループが 2018B から二期目に入ること、課題の採択が決まったことが報告された。二期目の後半に入るナノデバイス科学グループは終了まで進展に注目すること等報告があった。今後の分野融合研究について検討している旨報告があった（資料 8）。これらの報告に関する質疑はなかった。

審議事項

会長から審議事項四点、「会長選出方式の変更」、「顧問会議を会長の諮問機関に変更」、「SACLA-UC との連携強化」、これら変更に伴う「規則改定」について概要説明があった（資料 9）。これを受け庶務幹事から詳細説明があった（資料 10 から 13）。

6 会長選出方式の変更

平成 30 年度第 1 回評議員会で合意したとおり、「評議員からの互選」を、

「評議員会での決定」（評議員外からでも会長に就任可）に変更することが承認された。（資料 10）

7 顧問会議を会長の諮問機関に変更

現行の利用委員会顧問を会長の諮問に応じて SPRUC 全体に助言する顧問会議とすることについて、変更のポイント、顧問会議、評議員会、代表機関会議の役割分担、SPRUC 組織図の変更前後について説明があり、承認された。（資料 11）

8 SACLA-UC との連携強化

SACLA-UC との連携強化の具体案として四点の変更ポイントの説明があり、承認された。（資料 12）審議の過程で以下のような質疑があった。

- SALCA-UC の継続について質問があり、庶務幹事から、SALCA-UC 側の問題であり SPRUC として議論する対象ではないとの趣旨の発言があった。
- JASRI 利用推進部から SACLA-UC の立場表明（このことに同意しているのか）について質問があり、会長、庶務幹事から、元々 SACLA-UC 側から議論のもちかけがあり、SACLA-UC 会長らとの懇談では一体感を

持った運用が好ましいという意見であったとの趣旨の発言があった。

- 評議員からユーザーの視点では SPRUC と SACLA-UC の互恵的な関係が好ましいとの旨の発言があった。

9 規則改定

上記の審議事項の承認を受け、関係する会則等変更が必要な条項について説明があった。(資料 13) 会則の改定案は、最終的に翌日の総会に提案し承認を受けること、会則案が総会で承認された際の細則の改定案が承認された。承認に先立ち審議の過程で以下のような質疑があった。

- 新規則が発行した時点でこれまでの顧問の方は利用委員会の委員として残るのかとの質問があり、庶務幹事から利用委員会の顧問は廃止になるとの回答があった。合わせて庶務幹事から、現顧問へは会長から顧問会議の設立の案内に合わせて連絡する方向性が示された。
- 退任の申し出のあった現顧問へは、顧問会議への参加依頼を行わないことが庶務幹事から提案され異議がなかった。

10 その他

- 秋の学校の経費増加に伴う予算増加について承認された。

- 研究会活動の補助に関する規定が定める研究会に XFEL 利用研究会が含まれるのかとの質問があり、今後取り扱いを検討することとなった。
- SACLA-UC との連携強化の具体的なイメージについて質問があり、庶務幹事から融合研究等の例が示された。

連絡事項

- 11 評議員選挙の予定が示された。(資料 14)
- 12 平成 30 年度の今後の予定が示された。(資料 15)
- 13 来年度の SPring-8 シンポジウムの開催会場等検討が進められているとの報告があった。

配布資料

- 資料 1 行事幹事報告 行事開催状況
- 資料 2 行事幹事報告 SPring-8 シンポジウム 2018 プログラム
- 資料 3 行事幹事報告 SPRUC 2018 Young Scientist Award 選考委員会報告
- 資料 4 行事幹事報告 第 2 回 SPring-8 秋の学校準備状況
- 資料 5 会計幹事報告 平成 30 年度 SPring-8 ユーザー協同体 予算・執行状況

資料 6 会計幹事報告 SPring-8 シンポジウム 2018 予算・実績

資料 7 利用委員会報告 研究会開催状況

資料 8 利用委員会報告 分野融合型研究

資料 9 審議事項概要

資料 10 会長選出方式の変更

資料 11 顧問会議を会長の諮問機関に変更

資料 12 SACLA-UC との連携強化

資料 13 規則改定

資料 14 次期評議員選挙について

資料 15 平成 30 年度今後の予定

参考資料 平成 30 年度 SPRUC 評議員名簿

参考資料 平成 30 年度 SPRUC 会長・副会長・幹事等名簿

参考資料 平成 30 年度利用委員会 委員長・委員名簿